



永井 敦 先生

川崎医科大学泌尿器科学教室 教授

【略 歴】

1982年 岡山大学医学部医学科卒業
岡山大学医学部附属病院泌尿器科
津山中央病院泌尿器科
日本鋼管福山病院泌尿器科
1994年 岡山大学医学部附属病院助手
2003年 岡山大学医学部・歯学部附属病院泌尿器科講師
2006年 現職

【主な所属学会・役職・資格等】

日本泌尿器科学会評議員、学術委員、教育委員、広報委員〔専門医・指導医〕／日本泌尿器科学会西日本支部理事／日本性機能学会理事〔性機能専門医〕／日本性機能学会西部支部支部長／日本性科学会理事〔公認セックスセラピスト〕／日本生殖医学会代議員／日本Men's Health 医学会評議員／日本アンドロロジー学会評議員／日本腎泌尿器疾患予防医学研究会世話人／日本Endourology・ESWL学会評議員、倫理委員会副委員長、用語委員／日本泌尿器科学会・日本内視鏡外科学会〔泌尿器腹腔鏡技術認定医〕／日本がん治療認定医機構〔暫定教育医〕

【主な著書（分担執筆）】

セックス・カウンセリング「入門」（金原出版 東京 2005）
男の更年期 よくわかる診断と治療（昭和堂 京都 2006）
男性更年期障害 LOH症候群（南山堂 東京 2007）
泌尿器腹腔鏡下手術ベーシックテクニック（メジカルビュー社 東京 2007）
男性不妊症の臨床（メジカルビュー社 東京 2007）
最新泌尿器科診療指針（永井書店 東京 2007）
男性更年期障害 ～その関連領域も含めたアプローチ～（新興医学出版社 東京 2008）
今日の治療指針2009（医学書院 東京 2009）



熊本 悦明 先生

日本Men's Health医学会理事長
日本臨床男性医学研究所所長

【略 歴】

1955年 東京大学医学部卒業
1964年 東京大学講師（泌尿器科学講座）
1968年 札幌医科大学医学部 教授（泌尿器科学講座主任）
1995年 札幌医科大学医学部 名誉教授
1997年 （財）性の健康医学財団 会頭
2002年 同上財団 名誉会頭
2003年 日本臨床男性医学研究所所長

【役 職】

第1回アンドロロジー研究会 世話人（1974年）
第1回日本性感症学会 会長（1988年）
第7回日本思春期学会会長（1988年）
第8回日本アンドロロジー学会会長（1989年）
第78回日本泌尿器科学会会長（1990年）
第16回日本性科学会会長（1994年）
第1回日本Aging Male 研究会（日本Men's Health医学会）会長（2001年）
日本抗加齢医学会顧問、日本思春期学会顧問（現在）

【受 賞】

日本泌尿器科学会 坂口賞（1965年）
日本化学療法学会 志賀潔賞・秦佐八郎賞（1995年）
厚生省 保健文化賞（2000年）

“ 男性医学 事始め ”

～男面倒みます 泌尿器科～

主 催

第97回日本泌尿器科学会総会
日本Men's Health医学会

共 催

日本臨床泌尿器科医会

共催企業

日本イーライリリー株式会社
日本新薬株式会社
アンファー株式会社

第97回 日本泌尿器科学会総会

MEN'S HEALTH SEMINAR 2009

日本Men's Health医学会事務局

帝京大学医学部付属病院泌尿器科

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL：03-3564-2031 FAX：03-5770-6607

■日 時：2009年4月16日（木） 17:00～19:00

■会 場：岡山コンベンションセンター 405 会議室

第97回 日本泌尿器科学会総会

メンズヘルスセミナー 2009

“男性医学 事始め”

～男面倒みます 泌尿器科～

■ 開会の言葉 (17:00～17:05)

奥山 明彦 先生

日本泌尿器科学会 理事長

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学泌尿器科 教授

■ 講演1 (17:05～18:05)

座長:丸茂 健 先生

東京歯科大学市川総合病院泌尿器科 教授

『明快 男性医学』

永井 敦 先生

川崎医科大学泌尿器科学 教授

■ 講演2 (18:05～18:55)

座長:本間 之夫 先生

東京大学医学系大学院泌尿器外科学 教授

『“男性力”は、どのように 表現されているか?』

～男の心理と生理を巡って～

熊本 悦明 先生

日本Men's Health医学会 理事長・日本臨床男性医学研究所 所長

■ 閉会の言葉 (18:55～19:00)

清原 久和 先生

日本臨床泌尿器科医会 副会長

講演1

『明快 男性医学』

発生学から考えて男性になるということは並大抵のことではありません。さらに出生後もさまざまな試練を経て成人し、そして中高年を迎えます。一方、2050年には日本の人口が一億人を下回り、75歳以上の後期高齢者が25%を上回ります。今後、超高齢化・少子化社会を迎え、われわれは現在と同様の生産性を保つために元気で働かなければなりません。今回、今後も苦勞していくであろう男性の面倒をみたいという観点で、男性医学を考えたいと思います。

男性の分化は、未分化性腺から精巣が分化し、ミューラー管が退縮、ウォルフ管が分化発育するところから始まります。ウォルフ管は精巣上体、精管、精のうに分化し、尿生殖洞由来の前立腺とともに、射精、生殖に関する装置が完成します。その過程で退縮したミューラー管は精巣垂、前立腺小室として遺残しますが、精巣垂捻転や小室嚢胞など、時に泌尿器科疾患として遭遇します。このような内性器の分化や陰茎、陰囊など外性器の分化を改めて考えることで、男性の発生から、勃起、射精、生殖そして、前立腺疾患をはじめとする男性泌尿生殖器疾患の概念が明快に理解できるのではないかと思います。

普段、医学生や看護学生に講義している内容も含まれており、ご出席の泌尿器科の先生方には物足りない部分もあるかと思いますが、男性医学事始めのテーマに沿って、改めて男性医学の原点から学んでみたいと考えます。



川崎医科大学泌尿器科学

永井 敦 先生

講演2

『“男性力”は、どのように 表現されているか?』

～男の心理と生理を巡って～

人間の原型は女性型であり、それを男性ホルモンの力で男性化していくことで、晴れて“我が男性”が誕生するのであるが、その男性ホルモンの力は更に男の一生を支え、それにより心身両面で“男”が表現されていると言ってよい。

その男性ホルモンの男性化の力であるシャワーには、胎生期と生後の2段階に大別される。近年は殊に胎生期における男性ホルモンシャワーへの関心が高まりつつあり、種々分析されるようになってきている。性の形態のみでなく、手や顔などの骨格形成や脳の男性性分化など、かなり多面的な論議が進んでいる。

又、その様な胎生期の男性化に加えて、生後の男性ホルモンのシャワーが重なり、男の生き様である男の心理や生理、更に行動活性にも互り、まさに所謂“男性力”として、男の人生を彩っている。

最近の男性医学は男性ホルモンの形態・機能への影響のみでなく、広く行動活性や心理などへの関与など、心理学や行動科学的な視点からの研究分野がひろがりつつあり、その新しい観点からの成績なども紹介したい。

なおその上に興味深いことは、その男性ホルモンシャワーは男性のみでなく、女性でも男性におけるほど強力ではないが、微弱なりに存在し、それなりの注目すべき影響があることが明らかになり、種々な検討もされ始めている。

男女両性における、男性ホルモンの男性力の及ぼす広い生物学的表現を、現代男性医学の立場から考察していきたい。



日本臨床男性医学研究所

熊本 悦明 先生